

	ゼミナール名	ゼミナールI (経営学)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。
ゼミの概要	研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	研究対象としたい企業、産業を具体的に持っており、その理由が説明できること。 3年間研究し、4年次に卒業論文を原則として作成すること。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	「イノベーション・マネジメント入門」(第2版) 一橋大学イノベーション研究センター編、 日本経済新聞社(2017)
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出(20%)、レポート(30%)、定期試験(50%) *出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、 試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 13:00~15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業を深掘して、卒業論文に挑戦しましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	企業調査
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業を選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業を選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業を選択	第26回	企業調査
第11回	企業調査	第27回	企業調査
第12回	企業調査	第28回	企業調査
第13回	企業調査	第29回	企業調査
第14回	企業調査	第30回	企業調査
第15回	企業調査	第31回	企業調査
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (行動科学)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。 2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。
ゼミの概要	<p>前期では、まず教育学に関するテキストを読み、教育学の対象と方法を理解するとともに、教育学研究に貢献する行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。</p> <p>後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。</p>
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい (1.5 時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと (1.5 時間程度)。
履修条件	<p>特に設けない。ただし、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認定しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度中に「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること (または修得済みであること) <p>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。</p>
テキスト	小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会、2012。 岡崎友典・永井聖二〔編著〕『教育学入門－教育を科学するとは－』放送大学教育振興会、2015。
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。</p> <p>なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（教育学と近接の研究領域）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（教育学の研究対象と研究分野・研究方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	文献講読③（学習行動・学習者理解のための心理学研究（1））	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	文献講読④（学習行動・学習者理解のための心理学研究（2））	第21回	文献講読⑪（学校の組織と文化）
第6回	問題意識の明確化	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	研究テーマの設定	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	研究テーマの報告・グルーピング	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（学習行動・学習者理解のための社会学研究（1））	第25回	文献講読⑫（教育内容と教育方法）
第10回	文献講読⑥（学習行動・学習者理解のための社会学研究（2））	第26回	文献講読⑬（転換期における教育）
第11回	文献講読⑦（教育学の系譜（1））	第27回	文献講読⑭（教育の構造と機能）
第12回	文献講読⑧（教育学の系譜（2））	第28回	文献講読⑮（教育の文化的基礎）
第13回	文献講読⑨（近代社会の成立と学校）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（公教育制度の展開とゆらぎ）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (観光学)		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1 時限	単位数	2 単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「観光」を実践的に学ぼう
ゼミの到達目標	実践的に「観光」を学ぶための基礎を理解することができる。
ゼミの概要	<p>観光学は、実は面白くて役に立つ学問です。その観光学を実践的に楽しく学ぶことがこのゼミナールの1年間のミッションです。フィールドワークの「技」を実践から身につけ観光を研究することも重要ですし、さまざまな資格にチャレンジすることも将来に役立ちます。</p> <p>各自の興味・関心をもとに、メンバーと話し合ったうえで共通の研究テーマを決定し、観光をテーマにしたフィールドワークを含めた基礎的なグループ研究を1年かけて行います。</p> <p>観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」を起こすことを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光学を学ぶ意欲があること。 2. ゼミ行事(高杉祭、観光行事、球技大会、食事会など)に積極的に参加する意欲があること。 3. 無断欠席やネガティブな言動をしないこと。
テキスト	適宜資料を配布します。(特定のテキストは使用しません)
参考文献・資料	適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・提出物(30%)・ゼミ活動への参加状況・姿勢(40%)
オフィスアワー	毎週月曜日 1 時限(9:00~10:30) 毎週金曜日 3 時限(13:00~14:30)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代より四半世紀、一貫して観光をテーマに学び続けています。実学である「観光」はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思っています。その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめゼミ旅行やコンパなどのゼミ行事も、積極的に参加し一緒に楽しむことのできる学生の履修を希望します。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第16回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第17回	研究課題中間報告1
第3回	研究テーマと問題意識1	第18回	研究課題中間報告2
第4回	研究テーマと問題意識2	第19回	総合学習2
第5回	研究テーマと問題意識3	第20回	観光学の基本1
第6回	フィールドワークの方法1	第21回	観光学の基本2
第7回	フィールドワークの方法2	第22回	観光学の基本3
第8回	フィールドワークの方法3	第23回	ゼミ論の書き方
第9回	フィールドワークの方法3	第24回	研究課題ディスカッション2-1
第10回	総合学習1	第25回	研究課題ディスカッション2-2
第11回	研究課題ディスカッション1-1	第26回	研究課題ディスカッション2-3
第12回	研究課題ディスカッション1-2	第27回	研究課題ディスカッション2-4
第13回	研究課題ディスカッション1-3	第28回	研究発表1
第14回	研究課題ディスカッション1-4	第29回	研究発表2
第15回	前期の振り返り	第30回	後期の振り返り
		第31回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (刑法)		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	刑法の基本判例を読む
ゼミの到達目標	<p>受講者は、本ゼミナールを履修することによって、刑法(総論・各論)に関する基礎的知識に基づいて判例を考察し、以下のことができるようになる。</p> <p>1) 刑法(総論・各論)の主要論点に関する判例・学説の整理・説明 2) 刑法(総論・各論)の主要判例に関する事実の概要と判例の要旨の説明</p>
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、刑法総論および刑法各論全般について扱います。</p> <p>もともと、開講年次の関係から、前期では刑法総論に関する論点等を扱うこととし、後期では刑法各論(個人的法益に対する罪を主な範囲とします)に関する判例を扱うこととします。なお、後期については、刑法各論を履修済みであることをふまえて、受講者が個別に選択した判例について報告した上で、参加者全員による議論を行って、刑法各論の理解を深めてもらう予定です。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書等を用いて、各回のテーマについてあらかじめ調べることを。(予習: 120分) ・毎回扱った内容についてレジュメ等を使って振り返ること。(復習: 120分) <p>なお、後期については、報告担当者は報告内容についてのレジュメを作成し、それ以外の学生は選択されている判例について確認することが予習となる。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活入門 I・II、法律事例研究 I・II の単位を修得済みであること。 ・刑法各論・刑法総論を今年度必ず履修すること(外国法制研究も履修することが望ましい)。 ・体験期間中に出席し、その際に履修条件の確認を含めた面談を受けること。 <p>なお、上記した条件は必要条件であるから、これらの条件を充たさない者は履修を認めない。</p>
テキスト	佐伯仁志ほか『刑法判例百選 I・II [第8版]』有斐閣(2020年)
参考文献・資料	<ul style="list-style-type: none"> ・中野次雄『判例とその読み方 [第3版]』有斐閣(2009) ・西田典之(橋爪隆補訂)『刑法総論[第3版]』『刑法各論[第7版]』弘文堂(2019・2018)
成績評価の方法	<p>授業への参加状況(報告・質疑応答など) 60%、定期試験 40%</p> <p>なお、高杉祭等の公開の場での報告会も予定しています。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	月曜日 1・2 限(前期)、月曜 1・3 限(後期)
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので(もともと、既述したように、刑法各論・刑法総論を同時に履修しながらのゼミナールであることを考えると、すべての回でこれを維持できるとは思っていません)、積極的な参加(発言)を期待しています。</p> <p>また、これも当然のことを述べることになりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です(なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めません)。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション[講義の進め方など]	第17回	第1回判例報告①
第2回	因果関係・不作為犯に関する論点探究①	第18回	第1回判例報告②
第3回	因果関係・不作為犯に関する論点探究②	第19回	第1回判例報告③
第4回	因果関係・不作為犯に関する論点探究③	第20回	第1回判例報告④
第5回	緊急行為に関する論点探究①	第21回	第1回判例報告⑤
第6回	緊急行為に関する論点探究②	第22回	まとめ①
第7回	緊急行為に関する論点探究③	第23回	第2回判例報告①
第8回	実質的違法性に関する論点探究 (報告会準備を含む)	第24回	第2回判例報告②
第9回	原因において自由な行為に関する論点探究① (報告会準備を含む)	第25回	第2回判例報告③
第10回	原因において自由な行為に関する論点探究② (報告会準備を含む)	第26回	第2回判例報告④
第11回	錯誤に関する論点探究① (報告会準備を含む)	第27回	第2回判例報告⑤
第12回	錯誤に関する論点探究② (報告会準備を含む)	第28回	まとめ②
第13回	共犯に関する論点探究①	第29回	罪数論①
第14回	共犯に関する論点探究②	第30回	罪数論②
第15回	共犯に関する論点探究③	第31回	全体のまとめ
第16回	報告判例の選択；定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (社会政策)		
	ゼミ担当者名	木村 澄		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間の一生をどのように保障するのか」
ゼミの到達目標	日本の「社会保険制度」に関する各種制度を概略的に理解して、みなさんの職業生活と人生において活かせるようにすることを目標とします。
ゼミの概要	日本の社会保障制度について、テーマ別に概観して行きます。毎回の発表はありません。
授業時間外の学習	配付するレジュメのコラムを見れば簡単な予習ができます。そうすることで、次のゼミの内容の理解が進みます。また、簡単な復習をすることで、ゼミ内容の理解を深めることができます。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間にレジュメや資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【出席状況(50%)、中間試験(25%) 期末試験(25%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、小テストを行うことがあります。 ・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板(ポータルサイト含む)で指示をします。 <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週月曜日 13:00~14:00・木曜日 14:40~15:40 ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀(90~100点)、優(80~89点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(0~59点)
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立つゼミです。 「わかる・できる」ようになるを大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	社会政策の理論 (1)	第18回	医療保険制度 (1)
第3回	社会政策の理論 (2)	第19回	医療保険制度 (2)
第4回	社会政策の理論 (3)	第20回	医療保険制度 (3)
第5回	社会政策の理論 (4)	第21回	年金保険制度 (1)
第6回	社会政策の理論 (5)	第22回	年金保険制度 (2)
第7回	社会政策の理論 (6)	第23回	労働者災害補償保険制度 (1)
第8回	社会保障制度の生成	第24回	労働者災害補償保険制度 (2)
第9回	社会保障の役割と方法	第25回	労働者災害補償保険制度 (3)
第10回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (1)	第26回	雇用保険制度 (1)
第11回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (2)	第27回	雇用保険制度 (2)
第12回	日本の社会保障の歴史的発展 (1)	第28回	介護保険制度 (1)
第13回	日本の社会保障の歴史的発展 (2)	第29回	介護保険制度 (2)
第14回	生活保護法 (1)	第30回	介護保険制度 (3)
第15回	生活保護法 (2)	第31回	まとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (簿記・会計)		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日商簿記3級・日商簿記2級、税理士簿記論、宅建士、FP等の資格取得を目指します。
ゼミの到達目標	1年間で日商簿記3級を全員取得すること。
ゼミの概要	各学生の目標にそって各自がその資格取得に取り組む。
授業時間外の学習	ゼミとは別に週1回個別に私の研究室で問題演習をやる。
履修条件	自分の目標に向けて真面目に取り組める学生
テキスト	各学生の取得希望資格によりテキストを指定します。
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。
オフィスアワー	水曜日 4時間目・金曜日 4時間目
成績評価基準	授業態度 40%・検定試験の合否 40%・テスト成績 20%
学生へのメッセージ	近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。

授業計画(簿記検定資格取得希望者)			
第1回	面接	第17回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習
第2回	仕訳演習 問題演習	第18回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習
第3回	試算表問題演習 過去問題演習	第19回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習
第4回	試算表問題演習 予想問題演習	第20回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習
第5回	決算整理と諸表作成 過去問題演習	第21回	直前問題演習
第6回	決算整理と諸表作成 予想問題演習	第22回	直前問題演習
第7回	日商簿記3級検定試験直前演習 仕訳	第23回	直前問題演習
第8回	日商簿記3級検定試験直前演習 試算表	第24回	直前問題演習
第9回	日商簿記3級検定試験直前演習 P/L	第25回	直前問題演習
第10回	日商簿記3級検定試験直前演習 B/S	第26回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第11回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第27回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第12回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第28回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第13回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第29回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第14回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第30回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第15回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第31回	面接
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (安全保障論)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、基本的な問題点を発見する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を理解している。 2 領域及び日本の領土問題の概要を理解している。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を理解している。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて理解している。 8 安全保障に関し、選択したテーマについて自己の意見を述べるができる。
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。後半は、各自が興味を持ったテーマについて報告を行い、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 ・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。 <p>(予習 2時間程度、復習 2時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 次の①～④の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> ① 学生生活入門 I・II（または総合科目 I・II）の単位を修得済みであること。法律学科の学生はこれらに加えて、法律事例研究 I・IIの単位も修得済みであること。 ② 統治機構、行政学 1、公共政策論、地域政策論、国際研究入門、世界政治学 I、世界政治学 IIのうちいずれかの単位を修得済みであること。 ③ 体験期間（1回目又は2回目）に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは出席時に配布する。）。) ④ 履修登録にあたっては、体験期間中に担当教員と面接の上、履修許可を得ること。 2 国際関係論を同時履修であることが望ましい。 3 ゼミナール内での討議に参加すること。
テキスト	授業中に指示する。

参考文献・資料	防衛白書（令和元年版）、外交青書（令和元年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウエッジ）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミレポート50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日14:40～16:10・水曜日14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 学生の関心が定まり、レポート作成と研究発表に着手することができるようにするため、前期はこれまで体系的に学んだことがない学生もいることを前提にゼミナールを進めます。 後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障の意義	第17回	学生による発表① 討議
第2回	国家の成立要件、領域	第18回	学生による発表② 討議
第3回	領土・領海・領空	第19回	トピック・まとめ
第4回	防衛政策の基本①	第20回	学生による発表③ 討議
第5回	防衛政策の基本②	第21回	学生による発表④ 討議
第6回	防衛政策の方針	第22回	トピック・まとめ
第7回	政策決定機関	第23回	学生による発表⑤ 討議
第8回	治安維持と防衛の差異	第24回	学生による発表⑥ 討議
第9回	緊急事態対処時の行動及び権限	第25回	トピックまとめ
第10回	武力攻撃事態における法体系	第26回	学科発表会に向けてのプレゼン準備①
第11回	国民保護の在り方	第27回	学科発表会に向けてのプレゼン準備②
第12回	国際連合の主要機関及び役割	第28回	学科発表会に向けてのプレゼン準備③
第13回	国際司法裁判所	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	国際平和協力活動の概要	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	地域的安全保障体制の概要	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	ゼミナール I (対人心理学)		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純 (たきざわ じゅん)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	対人心理学に関する方法を学ぶ。
ゼミの到達目標	2年生のゼミでは対人行動に関する検証を行うための考え方や方法論を理解できるようになることを目標とする。社会・人間・動物について温かく思いやる視点と、冷静に分析する視点を両立させてほしい。
ゼミの概要	<p>心理学の視点や方法を用いて検証し、発信するゼミである。ゼミでは「簡単に調べただけでは答えが出せない問題」に取り組む。ゼミでの活動により、所属する学科の学びにも、試験勉強にも、就職活動にも、公務員試験にも、その後の人生にも活かすことを目指す。</p> <p>前期は対人行動に関する研究(実験や調査)の実施、データの分析、1200字以上のレポートの作成を行う。後期は、レポートの内容を発表し、次年度の3年生研究に向けた論文紹介を行う。</p>
授業時間外の学習	<p>ゼミの時間外で、グループでの話し合い、資料の検索、実験の考案・調査用紙の作成、実験や調査への協力の呼び掛け、データ入力、データ分析、レポートや論文作成、発表用スライドの作成などに取り組む必要がある(週2.0時間程度)。</p> <p>さらに、毎週のゼミ前には指定された資料を読み(週1.0時間程度)、ゼミ後には復習を行うことを求める(週1.0時間程度)。</p>
履修条件	<p>以下の①と②の両方を満たさなければ、このゼミを履修できない。</p> <p>①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、統計学、人間行動学、犯罪心理学、社会調査の仕方、学生生活入門Ⅱ」の7科目から2科目以上の単位が取得済みであること</p> <p>②ゼミ第3回開始までに教員との面談に合格し、受講の許可を得ること</p>
テキスト	<p>柏木吉基『「それ、根拠あるの?」と言わせないデータ・統計分析ができる本』(日本実業出版社, 2013年)</p> <p>このほか、学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探す必要がある。</p>
参考文献・資料	高野陽太郎・岡隆(編)『心理学研究法 補訂版』(有斐閣, 2017年)
成績評価の方法	<p>行事への参加と取り組み姿勢20%、提出物と発表60%、定期試験20%の割合で評価する。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	月曜日の2時限(10:40から12:10)、金曜日の2時限(10:40から12:10)とする。
成績評価基準	100~90点を秀、89~80点を優、79~70点を良、69~60点を可、59点以下を不可とする。
学生へのメッセージ	積極的な参加が求められるゼミです。学年合同の懇親会、球技大会、大学祭、ゼミ旅行、各学年の発表会など、学年やゼミを越えて人と関わる中で、人を想うことができる人になってください。心理学による検証を行い、検証結果を発信する中で、人への思慮深さを身につけてください。

授業計画			
第1回	ガイダンス：教員の研究紹介①	第17回	中間報告会②：レポートを用いた発表
第2回	心理学の概要：よい研究とは、教員の研究紹介②	第18回	発表の準備①：画面で見せる資料
第3回	研究の基本①：研究の体験①、2年生研究(2年研)の内容説明、連絡グループ作成	第19回	発表の準備②：紙で配る資料
第4回	研究の基本②：研究の体験②、チーム作り	第20回	発表の準備③：リハーサル
第5回	2年研の準備①：リサーチクエスションの設定	第21回	2年生研究発表会
第6回	2年研の準備②：研究計画立案、仮説の設定	第22回	3年生研究(3年研)に向けて①：論文の探し方
第7回	2年研の準備③：道具の準備	第23回	3年研に向けて②：雑誌「心理学研究」について、発表順の決定
第8回	中間報告会①：研究実施前の最終確認	第24回	論文紹介①
第9回	2年研の実施①：協力依頼と同意	第25回	論文紹介②
第10回	2年研の実施②：データ収集、データ入力	第26回	論文紹介③
第11回	データ分析①：平均値、標準偏差	第27回	データ解析①
第12回	データ分析②：群分け、図表の作成	第28回	データ解析②
第13回	レポートの作成①：問題と目的、方法	第29回	3年研に向けて③：リサーチクエスションの設定
第14回	レポートの作成②：結果、考察	第30回	3年研に向けて④：仮説の設定、統計的手法の検討
第15回	レポートの作成③：先行研究からの進歩	第31回	卒業研究発表会への参加
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (情報システム管理論)		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	最新の情報・IT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	<p>このゼミの単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。 2. グループによる調査・研究・発表を通して、チームワークやコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身に付く。 3. 情報リテラシー能力が身に付く。
ゼミの概要	IT関連の著名な人間をテーマに、コンピュータの歴史と当時の開発現場での人間模様や背景を学びます。IT関連資格の取得に向けた知識と実技の習得と実践を行います。学生が社会人になるための基本的な資質を磨きます。
授業時間外の学習	情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。 多くのソフトウェアを使いこなす。
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術 I を修得している学生が望ましい。 適宜資料を配布しますが、欠席した学生は配布資料の有無を確認し、研究室まで取りに来てください。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	<p>講義中に実施する実践的課題 30% (知識問題・実技問題・レポート)、グループ調査研究 30%、試験 40% により判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	毎週 金曜日 10:40~12:10 これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	<p>平成 28 年度 (2016) 以降入学した学生 秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p> <p>平成 27 年度 (2015) 以前入学した学生 優 (100~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)</p>
学生へのメッセージ	パソコンを今まで操作したことがない学生にも対応できるベルから学習しますが、油断せずに、遅刻は厳禁です。大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考える。

授業計画			
第1回	ゼミナールの概論	第17回	調査研究のための概要 (グループ分けとテーマ説明) I T活用能力の習得⑥ (模擬試験6)
第2回	情報やI T関連の資格取得について	第18回	I T活用能力の習得⑦ (模擬試験7) 最新情報及びI T技術の調査研究班決め 秋田県の諸問題班決め
第3回	ビルゲイツとマイクロソフトについて (ビデオ視聴)	第19回	I T活用能力の習得⑧ (模擬試験8) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班調査研究)
第4回	ビルゲイツとマイクロソフトについて (ビルゲイツの歩んだ道の解説)	第20回	I T活用能力の習得⑨ (模擬試験9) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班調査研究)
第5回	スティーブジョブズとアップルについて (ビデオ視聴、 スティーブジョブズの歩んだ道の解説)	第21回	I T活用能力の習得⑩ (模擬試験10) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備)
第6回	コンピュータ業界の時代背景について	第22回	情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第7回	パソコン黎明期の時代背景と人間模様	第23回	ゼミ内各研究中間発表会
第8回	情報処理技術の基礎知識の習得① (日商P C検定3試験共通の知識科目について)	第24回	I T活用能力の習得⑪ (模擬試験11) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良)
第9回	情報処理技術の基礎知識の習得② (日商P C検定文書作成試験及びデータ活用試験 の知識科目について)	第25回	I T活用能力の習得⑫ (模擬試験12) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良)
第10回	情報処理技術の基礎知識の習得③ (日商P C検定スライド作成試験の 知識科目について)	第26回	情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 本番発表準備
第11回	I T活用能力の習得① (文書作成実技試験対策 模擬試験1と解説)	第27回	ゼミ内各研究発表会
第12回	I T活用能力の習得② (文書作成実技試験対策 模擬試験2と解説)	第28回	情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第13回	I T活用能力の習得③ (データ活用実技試験対策 模擬試験3と解説)	第29回	情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第14回	I T活用能力の習得④ (データ活用実技試験対策 模擬試験4と解説)	第30回	情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第15回	I T活用能力の習得⑤ (データ活用実技試験対策 模擬試験5と解説)	第31回	1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (政治学・行政学)		
	ゼミ担当者名	中村 逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。 社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	<p>①前期から後期の始めにかけては、政治学・行政学について幅広く学ぶため、次の二冊をテキストとして読み進める予定です（参加者の意見も聞く予定）。</p> <p>(a) 松元雅和『平和主義とは何か：政治哲学で考える戦争と平和』。</p> <p>(b) 小松理虔『新復興論』（または斎藤公平編『未来への大分岐』か、同著者の環境・気候変動問題やSDGsを扱った他の著書）。→東日本大震災と地域作りに焦点をあてた書籍です。毎回、指定箇所を事前に読んできて、当日は全員で議論するという形でゼミを進めます。テキストは専門書ではなく一般読者向けの新書などですので、比較的読みやすいと思います。</p> <p>②後期の途中からは、ゼミ論文の作成に取り組んでもらう予定です。</p>
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、事前に図書館やウェブ情報を通じて調べておくこと（2.0時間程度）。新聞などに日々目を通しておくこと（2.0時間程度）。
履修条件	特にありません。ただし、ガイダンスに出席できない（できなかった）場合は、第2回目の授業日の前までに、7階の研究室に一度お越しくください。
テキスト	松元雅和『平和主義とは何か：政治哲学で考える戦争と平和』中公新書（820円）。 小松理虔『新復興論』ゲンロン叢書、2018年。
参考文献・資料	斎藤公平編『未来への大分岐：資本主義の終わりか、人間の終焉か』集英社新書（980円）。 山本昭宏『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』中公新書（920円）。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢（60%）、レポートまたは試験（40%）によって評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>(1) ゼミの内容に関心を持たれた方は、気軽に7階の研究室にお越しくください。</p> <p>(2) 政治に強い関心がなくても、特に問題はあります。政治とは何か、学問とは何なのか、一緒にゼミで考えましょう！</p> <p>(3) 大人数にはならないと思いますので、5～6名ほどの少人数が好みの人にはお勧めです。</p> <p>(4) 公務員試験の勉強についてある程度は助言ができると思います。</p> <p>(5) ゼミナール発表会は法律学科のものに参加しますので、注意してください。</p>

授業計画			
第1回	第1回ガイダンス	第17回	後期のゼミ活動についての説明、個別面談
第2回	第2回ガイダンス	第18回	食と復興① ーいわきの現場から (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第3回	文献検索の方法、ゼミ内の役割分担	第19回	食と復興② ーうみラボの実践 (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第4回	愛する人が襲われたら ー平和主義の輪郭① (『平和主義とは何か』)	第20回	食と復興③ ーバックヤードとしてのいわき (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第5回	愛する人が襲われたら ー平和主義の輪郭② (『平和主義とは何か』)	第21回	原発と復興① ー復興とバブル (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第6回	正しい戦争はありうるか ー正戦論との対話① (『平和主義とは何か』)	第22回	原発と復興② ーロコクと原発 (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第7回	正しい戦争はありうるか ー正戦論との対話② (『平和主義とは何か』)	第23回	ゼミ論文についての説明、個別面談
第8回	個別面談	第24回	原発と復興③ ー原発をどうするのか (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第9回	平和主義は非現実主義か ー現実主義との対話① (『平和主義とは何か』)	第25回	文化と復興① ーいわきの力 (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第10回	平和主義は非現実主義か ー現実主義との対話② (『平和主義とは何か』)	第26回	映画鑑賞など
第11回	映画鑑賞など	第27回	文化と復興② ー被災地と地域アート (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第12回	救命の武力行使は正当か① ー人道介入主義との対話 (『平和主義とは何か』)	第28回	文化と復興③ ー誤配なき復興 (『新復興論』) *または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第13回	救命の武力行使は正当か② ー人道介入主義との対話 (『平和主義とは何か』)	第29回	ゼミ論文作成状況のフォロー、個別指導
第14回	結論と展望 (『平和主義とは何か』)	第30回	ゼミ論文の発表
第15回	レポートに関する説明、個別面談	第31回	後期の総括、ゼミ論文の体裁、個別面談
第16回	レポート	第32回	レポート (または定期試験)



ゼミナール名	ゼミナール I (人間科学)		
ゼミ担当者名	西巻 丈児 (にしまき じょうじ)		
科目分類	専門科目群		
開講年次	2年次	開講期間	通年
開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間」って何? -経済活動をする人間の「知」とは-
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活の中で、何をどのように考えればよいのかという思考の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。 ・ 人間のあり方をみずから考えるという、思考法を身につけることができる。
ゼミの概要	<p>「自分ってなんだろう?」、「よく生きるためにはどうすればよいのだろうか?」…、結局のところ「人間とはなんだろう?」。あなたもこれに類似する事柄を、少なからず考えたことがあるのではないだろうか。実は、このような問いは古代から考えられており、現在までさまざまな答えが提示されてきた。人間の本质を労働と捉え、経済の仕組みが人間のものの見方や考え方を決めていたとみなした例もあった。人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。</p> <p>このゼミナール I では、その中でも、「知ること」を中心にして、古代から考えられてきた「人間のあり方」についての思索の道をたどり、「人間の存在」の諸問題を一緒に考えていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでくること。また、研究発表に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間についての観方」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を本教員に直接表明し、面談を受けることが、第二条件である。 ・ 講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでくることが全員に義務づけられる。 ・ 本ゼミナールに属する学生は全員、研究発表大会などに出場しなければならない。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も適宜使用する。
参考文献・資料	プラトン『ソクラテスの弁明』岩波文庫 デカルト『方法序説』岩波文庫
成績評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらったリアクションペーパーによる理解度(20%)、発表時の内容(30%)と、定期試験(50%)を総合して、最終的な評価を下す。また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 10:40~12:10 木曜日 10:40~12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考えるさまざまなヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。
----------------------	--

授業計画	
第1回	ガイダンスα： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方
第2回	ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方
第3回	人間とは？：＜私＞は何を知ることができるのか
第4回	客観とは？：ありのままの姿を考える
第5回	無知の知とは？：ソクラテスのフィロソフィア
第6回	存在の探求とは？(1)：プラトンのイデア論
第7回	存在の探求とは？(2)：アリストテレスの世界観
第8回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(1)
第9回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(2)
第10回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(3)
第11回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(4)
第12回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(5)
第13回	人間のあり方と知に関するディスカッション
第14回	レポート完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について
第16回	定期試験
第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第18回	キリスト教の誕生と展開：信仰と知の分離
第19回	近世の自然観：科学革命の誕生
第20回	近世の合理的精神：デカルトのコギト
第21回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①
第22回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②
第23回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(1)
第24回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(2)
第25回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(3)
第26回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(4)
第27回	理性への反省(1)：カントの人間観
第28回	理性への反省(2)：カントの世界観
第29回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会①
第30回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会②
第31回	本ゼミナールの総括
第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (表現文化)		
	ゼミ担当者名	橋元 志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本やイギリスの文化・文学を学び、大学生にふさわしい教養を身につける。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 日本やイギリスの文学に触れ、内容を味わい、文化的背景も含めて理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした論理的な文章を書き、発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んでください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう (1時間程度)。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと (1~2時間程度)。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します (1~2時間程度)。
履修条件	① 「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」のいずれかの科目を履修し、単位を修得しているか、今年度、上記科目または「世界の中の日本文学」のいずれかを履修する意欲があること。 ② 前期の履修登録期間中 (ゼミナールの1回目、2回目まで) に面談し、真面目にゼミに参加する意志が確認できた人。 ③ 大学行事等で、他のゼミ生と一緒に行動することも多いので、皆と仲良くできること。 ④ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆の意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業の中で随時、紹介していきます。
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢 (25%)、課題の提出 (25%)、定期試験 (50%)】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜日 (13時~16時) ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)

<p>学 生 へ の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>皆さんには夢がありますか。将来の進路をどのように考えていますか。実は、そのような質問をしたり、考えたりできることは、とても幸せなことなのです。この地球上には、そんなことを考えたこともない、ただ生きていくだけで精一杯の子どもや若者たちが数多く存在しています。視野を広く、そして心を豊かにするために、皆で国内外の文化・文学を学んでいきましょう。</p>
------------------------------	---

授業計画			
第1回	文化を学ぶということ	第17回	文学を楽しむには
第2回	様々な世界遺産を知ろう	第18回	小説を読むための技法
第3回	ユネスコと世界遺産	第19回	イギリスの歴史と文化
第4回	世界遺産と日本の神話	第20回	イギリスはおいしい
第5回	世界遺産と日本の文化	第21回	イギリスの文化を楽しもう
第6回	世界遺産と日本の文学	第22回	イギリスの小説または戯曲を読んでみよう
第7回	日本の文化と四季	第23回	恋愛小説を読む
第8回	日本の文化と遊び	第24回	推理小説を読む
第9回	日本の文化を楽しむ	第25回	芸術を楽しみ、理解するために
第10回	プレゼンテーションについて学ぼう	第26回	レポート・論文の書き方
第11回	パワーポイント作成のポイントとは	第27回	論述のポイント
第12回	話す技術・敬語・マナーを磨こう	第28回	プレゼンテーション能力を向上させるには
第13回	プレゼンテーションの実践	第29回	スピーチの極意
第14回	キャリア・プランニングとは①	第30回	キャリア・プランニングとは②
第15回	コミュニケーション能力を向上させるには	第31回	将来の進路について考える
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (文化研究)		
	ゼミ担当者名	花田富二夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	文章作成と論述方法の基礎を学び、社会・文化・経済学などに関するさまざまな文章を読解し、それらに対する自分の意見を述べて文章化する。これらを通じて文章の読解力と文章作成能力を育成する。さらに後期後半は自由課題を設定し、各自、あるいは班別による自由論文の作成を目指し、パワーポイントなどによる発表会を実施する。年度末にはこれらの論述文を提出する。
ゼミの到達目標	文章表現方法と文章作成方法の基礎の修得のもと、時事評論や社会文化に関する文章、または優れたエッセイを読みながら、自分の考えを述べることができ、それらを文章化できるようにする。そして、最終的には、自由課題に関する本格的レポートの作成を目指す。
ゼミの概要	前期では、文章表現の基礎としての表記の問題や、論述上の文章構成の問題などを基礎的分野から学ぶ。すべてプリントによる演習形式となる。後期には、様々な文章の読解を行い、お互いの意見を述べ合いながら、それぞれが文章化する練習を行う。最後に、自分の課題を設定し、レポートを作成してパワーポイントの発表を行う。
授業時間外の学習	新聞記事やさまざまな評論文を読み、文章の要点をまとめたり、文章の構成について分析的に考えたりする習慣を、常ひごろから身につけておくことが望ましい。
履修条件	特になし。
テキスト	すべてプリントにより行う。
参考文献・資料	授業時に指示する。
成績評価の方法	毎回の出席を重視する。授業時の提出課題を重視する。これらを総合評価して換算する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4限目
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	遅刻・欠課は必ず連絡できる責任感と積極的に授業に取り組む真摯な態度を持ってもらいたい。文章表現・文章作成に自信のない人を歓迎する。

授業計画			
第1回	ガイダンス 表記の基礎 文字の使い分け	第17回	各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。
第2回	ガイダンス 表記の基礎 句読点・表記符号の使い方	第18回	各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。
第3回	表記の基礎 仮名づかいを正しく	第19回	各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。
第4回	表記の基礎 送り仮名の送り方	第20回	各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。
第5回	表記の基礎 同音異義語・類義語の注意	第21回	各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。
第6回	表記の基礎 慣用的な表現	第22回	自由課題の設定に関する面談
第7回	表記の基礎 文の乱れに注意	第23回	自由課題に関する調査・資料収集
第8回	表記の基礎 文を短く・文体の統一	第24回	自由課題に関する調査・資料収集
第9回	文章作成の基礎 文は人なり	第25回	自由課題に関するレポート作成
第10回	文章作成の基礎 小論文とレポート、作文	第26回	自由課題に関するレポート作成
第11回	文章作成の基礎 小論文の型と実践（1）	第27回	自由課題の中間発表
第12回	文章作成の基礎 小論文の型と実践（2）	第28回	自由課題に関する修正
第13回	文章作成の基礎 小論文の型と実践（3）	第29回	自由課題に関する修正
第14回	文章作成の基礎 自己推薦書の書き方	第30回	自由課題発表会（パワーポイント使用）
第15回	文章作成の基礎 志望理由書の書き方	第31回	自由課題発表会（パワーポイント使用）
第16回	定期試験 小論文提出	第32回	定期試験 自由課題レポート提出



ゼミナール名	ゼミナール I (国際文化論)		
ゼミ担当者名	半田 幸子		
科目分類	専門科目群		
開講年次	2年次	開講期間	通年
開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	国際文化論および文化研究の基礎 (学問の成り立ち、視座、テーマ、方法論等) を学び、研究の素地を養う。
ゼミの到達目標	国際文化論の学問の基礎について理解し、自分なりの研究テーマを見つける。
ゼミの概要	<p>文献講読を通して、国際文化論という学問および文化研究の成り立ちや射程範囲について学びます。国際文化論も文化研究も比較的新しく学際的な学問であり、射程範囲は大変幅広く、対象も方法も多様です。研究の具体的な対象は、芸術、食、衣服、制度、宗教、思想など多岐にわたっており、テキストをヒントに各自の興味・関心に基づいてテーマの選択が可能です。(但し、教員と要相談。) このゼミでは、まずは身近な文化現象であるポップカルチャーを通して分析および考察するための視点と理論を学びます。</p> <p>前期は、文献講読を通して国際文化論および文化研究の基礎を学びと同時に、批判的読解力、要約力、発表力、理解力、論理的思考力を養います。並行して、前期を通して自分なりのテーマを考え、前期の終わり頃までに暫定的なテーマを設定してもらいます。テーマの設定は教員と相談しながら行います。後期には、設定したテーマに関連するこれまでの研究 (先行研究) について調べ、発表してもらいます。前期および後期ともにレポートを提出してもらいます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・文献講読に関しては、担当を与えられた場合には、担当箇所を読んで、要点をまとめ、レジюмеを作成する。(週 1.5 時間～3 時間程度) ・担当ではない場合にも、事前に読んでおき、不明点や疑問点を明確にする。(週 1.5 時間程度) ・自分なりのテーマを考える。(週 1 時間程度)
履修条件	<p>以下の 1. は必須条件とし、2. および 3. のいずれかに当てはまることを履修条件とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に学ぶ意欲があること。 2. 「国際的なこと」や「文化的なこと」に興味があること。 3. 文化研究または人文系の学問や研究に関心があること。
テキスト	遠藤英樹『現代文化論』ミネルヴァ書房、2011 年。(受講生に合わせて変更の場合あり)
参考文献・資料	平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000 年。他、ゼミナールの中で、適宜、紹介します。
成績評価の方法	<p>【ゼミへの参加態度 (25%)、発表 (25%)、レポート・ゼミ論文 (50%)】</p> <p>上記評価項目をもとにして総合的に判断します。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日・水曜日 15:00～</p> <p>※これ以外の時間・曜日は、事前に予約をとってください。</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	自分なりの問いやテーマを見つけ、それを時間と労力をかけて究めることができれば、知識だけでなく達成感が得られ、自信につながります。加えて、気づかぬうちに論理的思考力と文章力が鍛えられ、就職活動においても、その先の社会人としても、力を発揮することになるでしょう。あらゆることに好奇心旺盛に、一つひとつの発見を楽しみましょう。

授業計画（以下の計画は、授業の進捗状況および受講者の人数や学習状況によっては変更することがあります。）			
第1回	お試し体験①（ゼミ概要説明、教科書説明、自己紹介）	第17回	各自の進捗報告（先行研究と一次資料調査）
第2回	お試し体験②（ゼミ概要説明、教科書説明、自己紹介）	第18回	先行研究と一次資料の収集および整理に関する注意事項
第3回	文献講読の進め方（レジユメの作り方等） 文献講読①『国際文化論』教員による紹介	第19回	先行研究と一次資料：個別指導
第4回	文献講読② 「第1講 映画：1. 構造主義、2. 物語論」	第20回	先行研究と一次資料の収集状況に関する報告①
第5回	文献講読③「第2講 テレビドラマ：1. 視聴者（オーディエンス）分析、2. 視聴者（オーディエンス）のエスノグラフィー」	第21回	先行研究と一次資料の収集状況に関する報告②
第6回	文献講読④「第3講 ポピュラーミュージック：1. 文化資本論、2. 経路（ラウト [routes]）」	第22回	先行研究と一次資料の収集状況に関する報告③
第7回	文献講読⑤「第9講 観光：1. 擬似イベント、2. シミュレーション」	第23回	ゼミ論文の報告の仕方、資料作成方法、注意事項、個別指導
第8回	文献講読⑥「第10講 お笑い：1. フレイミング、2. 構築主義」	第24回	中間報告①（分析および考察の進捗）
第9回	研究テーマに関する中間報告	第25回	中間報告②（分析および考察の進捗）
第10回	文献講読⑦「第8講 ファッション：1. 記号論、2. 「大きな物語の終焉」	第26回	中間報告③（分析および考察の進捗）
第11回	文献講読⑧「第4講 アニメ：1. ソフト・パワー論、2. オリエンタリズム論」	第27回	ゼミ論文の執筆：個別指導
第12回	文献講読⑨「第5講 マンガ：1. 文化産業論、2. 価値形態論」	第28回	ゼミ論文発表①（分析、考察、結論）
第13回	文献講読⑩「第6講 文学：1. 間テキスト性、2. 脱構築」	第29回	ゼミ論文発表②（分析、考察、結論）
第14回	文献講読⑪「第7講 パーソナル・コンピュータ：1. ホット・メディアとクール・メディア、2. 公共性論」	第30回	ゼミ論文発表③（分析、考察、結論）
第15回	各自の研究テーマ発表（背景と目的）	第31回	総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ（日本経済のマクロ分析）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	◆対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学の視点から、まず日本経済の全体像を理解する。その大前提となる日本の人口問題について確認するとともに、日本の製造業の劣化についてもその実態を把握する。
ゼミの到達目標	日本経済の問題点を探るために、まずその全体像と実態を把握します。それによって、日本経済の問題点が自分なりに理解できます。また、ビジネスパーソンにとっては必ず必要となる毎日の経済ニュースの理解度が飛躍的に高まります。
ゼミの概要	2年次ということで、基礎知識の確認を中心とするため、輪読と意見発表の展開で進めます。基礎知識を習得するとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。この1年で、自分の研究テーマを探して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞に目を通すこと。
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、生活経済学の単位を取得済みかまたは同時履修すること。以降に、マクロ経済学Ⅱも履修すること。
テキスト	「日本経済入門」野口悠紀雄 講談社現代新書
参考文献・資料	「野口悠紀雄の経済データ分析講座」ダイヤモンド社 「平成はなぜ失敗したのか」野口悠紀雄 幻冬舎 日本経済と財政危機の本質シリーズ3R「日本が抱える大きな重荷！激減する人口と消滅する地方都市」深澤泰郎、 同シリーズ10「劣化する日本の製造業」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	輪読と意見発表 (50%)、テストまたはまとめのレポート (50%)
学生へのメッセージ	日本の将来はマクロ経済的には暗い展望しか描けません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。個人として幸福になる道を探します。なお、ゼミナール時にパソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。パソコンを持っていない人は、事後でもいいので、相談して下さい。

授業計画			
第1回	ガイダンス 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	膨張を続ける医療・介護費
第2回	不振が続く国内需要	第18回	公的年金が人口高齢化で維持不可能になる
第3回	首都圏のジリ貧に気づかない「地域間格差」論の無意味	第19回	日銀の異次元緩和は事実上の財政ファイナンス
第4回	「人口の波」が語る日本の過去半世紀、今後半世紀	第20回	第8回～19回までのまとめとレポート作成
第5回	地方も大都市も等しく襲う「現役世代の減少」と「高齢者の激増」	第21回	レポート作成
第6回	「人口減少は生産性上昇で補える」という誤った思い込み	第22回	新しい技術で生産性を高める
第7回	第1回から6回までのまとめと各自のレポート作成	第23回	成長するアメリカと停滞する日本
第8回	レポート作成	第24回	人工知能とビックデータが広げる可能性
第9回	経済活動をとらえる経済指標 国民経済計算	第25回	新しいITサービスが変える市場経済の姿
第10回	製造業の縮小は不可避	第26回	本格的利用が始まったビットコイン技術
第11回	製造業就業者は全体のまで縮小	第27回	学校教育の問題
第12回	ピケティの仮説では日本の格差問題は説明できない	第28回	第22回～26回までのまとめとレポート作成
第13回	物価の下落は望ましい	第29回	レポート作成
第14回	異次元緩和政策は失敗に終わった	第30回	年間レポート作成
第15回	深刻な労働力不足が日本経済を直撃する	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (グローバル英語)		
	ゼミ担当者名	三浦 薫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	真の国際人への第一歩として大切なことは、ただ英語能力を高めることでも、他国の文化を知ることだけでもありません。まずは自国である日本、日本文化をしっかりと理解することから始めましょう。
ゼミの到達目標	海外発信の日本文化に関する資料を読むことで、他者の視点による文化理解のあり方を学びながら日本について再発見をします。
ゼミの概要	「英語の勉強」はゼミではやりません。毎回のテーマに関して、まずは読む、考える、意見をまとめる、発表し、他の人の意見を聞き、話し合う力を高めあいます。
授業時間外の学習	沢山本をよむこと。
履修条件	
テキスト	プリントを配布します
参考文献・資料	ゼミナールで指示します。
成績評価の方法	受講態度40% プレゼンテーション40% 試験20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜 10時40分から 12時10分 木曜 9時から 10時半
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	英語は英語の講義の時間で学びましょう。ゼミでは、英語を通して日本を学んでもらいたいと思います。新しい気づきのきっかけになれば良いと思います。

授業計画			
第1回	オリエンテーション	第17回	Jポップと歌謡曲の世界
第2回	アニメの世界	第18回	学生によるプレゼンテーション (レポート形式)
第3回	学生によるプレゼンテーション (レポート形式)	第19回	ボカロの世界
第4回	マンガの世界	第20回	学生によるプレゼンテーション (パワポ)
第5回	学生によるプレゼンテーション (パワポ)	第21回	ゲームの世界
第6回	カワイイ文化①について	第22回	学生によるプレゼンテーション (レポート形式)
第7回	学生によるプレゼンテーション (レポート形式)	第23回	日本の食の世界
第8回	カワイイ文化②について	第24回	学生によるプレゼンテーション (パワポ)
第9回	学生によるプレゼンテーション (パワポ)	第25回	海外における日本のポップカルチャー①
第10回	お笑いの世界	第26回	学生によるプレゼンテーション (レポート形式)
第11回	学生によるプレゼンテーション (レポート形式)	第27回	海外における日本のポップカルチャー②
第12回	コスプレについて	第28回	学生によるプレゼンテーション (パワポ)
第13回	学生によるプレゼンテーション (パワポ)	第29回	後期まとめのプレゼンテーション
第14回	宝塚歌劇と歌舞伎の世界	第30回	後期のまとめプレゼンテーション
第15回	前期まとめのプレゼンテーション	第31回	一年のまとめプレゼンテーション
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ（商法・会社法）		
	ゼミ担当者名	道端 忠孝（みちはた ただよし）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	商人・会社を多方面から考察して明らかにする。
ゼミの到達目標	商人としての会社を理解する。 将来就職する会社の実体を理解できる。
ゼミの概要	商法・会社法を全体的に考察し、特に、商人としての会社の実体を明らかにしたい。 ゼミでは、最終的には、「株式会社3社の比較的調査研究」又は「株式会社の〇〇の研究」をレポート課題として仕上げ、発表する。 ゼミの時間には、時折、資格取得の話や、学園祭への参加、ゼミのイベントなどにも触れます。
授業時間外の学習	1、ゼミナール開始前に該当箇所必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。（1・5時間程度） 2、ゼミナール開始前に復習をし、ノート整理しておいてください。（1・5時間程度） 3、日頃から新聞に目を通し、会社に関する記事を切り抜き又はメモをしておいてください。（0・5時間程度）
履修条件	特にありません。
テキスト	テキストは使用しませんが、六法は用意してください。
参考文献・資料	六法、会社法判例百選（ジュリスト）など
成績評価の方法	・レポート報告（60%）・レポート発表（40%） ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・金曜日 14:30～16:30 14:30～16:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	商法・会社法を理解して就職活動を有利に展開してください。

授業計画			
第1回	商法・会社法ゼミガイダンス、自己紹介（将来の目標など）	第17回	株主総会
第2回	商人とは、会社とは、一般人との違い	第18回	取締役会
第3回	個人企業と会社の違い	第19回	監査役
第4回	会社の課長・部長の地位と権限	第20回	取締役の義務と責任
第5回	会社の支店長と社長の地位と権限	第21回	取締役と代表取締役の違い
第6回	支店と代理店の違い	第22回	取締役と監査役の違い
第7回	会社の種類と違い	第23回	監査役会設置会社－イオンリテール(株)－
第8回	株式会社と合同会社の違い	第24回	監査等委員会設置会社－秋田銀行・北都銀行
第9回	営利企業である会社は、なぜ社会貢献活動したり、政治献金をするか。	第25回	指名委員会等設置会社－北都銀行の親会社、フィデアホールディングス(株)－
第10回	会社はみんな法人であるが、法人とはいかなる意味か。	第26回	事業譲渡
第11回	株主有限責任といわれるが、株主は、いかなる責任も問われることはないか。	第27回	会社分割
第12回	株式会社の設立－合同会社と対比して－	第28回	合併
第13回	株式のあれこれ	第29回	株式移転・株式交換
第14回	新株発行	第30回	会社が解散するという事は
第15回	新株予約権	第31回	レポート報告（「株式会社3社の比較的調査研究」又は「株式会社の〇〇の研究」）
第16回	定期試験（レポート提出）	第32回	定期試験（上記レポート発表）



ゼミナール名	ゼミナール I (環境学)		
ゼミ担当者名	村中 孝司 (むらなか たかし)		
科目分類	専門科目群		
開講年次	2年次	開講期間	通年
開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食料・農林漁業、食文化の問題を解決に導く探究を通して、環境と経済の関係を読み解く。 2. 自然風景と地域資源の魅力発掘を客観的手法により方法を探究する。 3. 研究の成果を発表し、口頭や文章で表現する方法を学ぶ。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食料と農林漁業に関する問題、自然風景の評価手法、生物多様性に関する問題など、多様な視点から地域課題に関するテーマを調査し、環境や地域に対する理解を深めます。 2. メンバーの発表をよく聴き、質問や意見を述べる力を身につけます。 3. 学術書や論文を読み、文章を深く理解し、自分で表現する力を身につけます。 4. 大学生としてどのような学業を修めたか、1つの研究テーマを見つけます。
ゼミの概要	<p>自然、環境、経済の関係に着眼し、持続可能な社会の構築を考えることを目標にしています。また、自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。ゼミナールでは、フィールドワークを併せて実施します。座学の勉強だけでは、本質的な問題を発見することは難しいからです。自然や社会に対する皆さんの観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①輪読、②研究の2つです。</p> <p>① 輪読：自然科学、環境経済、農業、食文化、自然風景などをテーマとした学術書を、年間を通して1冊読み、知識と考え方を身につけます。どの教科書を読むかについては、ゼミが始動してから相談して決定します。</p> <p>② 研究：1人または2人以上のチームで1つのテーマを決め、研究を行います。研究のテーマは、自然風景、食文化、食料・農林漁業、生物多様性、環境認識などから、関心のあるテーマを教員と相談しながら見つけることから始まります。これは、4年次に作成する卒業論文のための事前準備です。2年生のゼミは、研究のスタートラインと位置づけますので、1年間かけて研究テーマをじっくりと探してください。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ゼミナール内外の仲間たちとも、よく議論してください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。</p>
履修条件	<p>次の①、②の条件をすべて満たす者としてします。</p> <p>① 研究活動に熱心に取り組むことができる者。</p> <p>② 2回の体験ゼミのうち、少なくとも1回に出席した者。なお、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、統計学、総合科目Ⅰ・Ⅱ(村中クラス)、地球環境学、地域フィールドワーク、経済データ解析論から4単位以上を履修していることが望ましい。</p>
テキスト	<p>ゼミナール中にみなさんと相談して決定します。なお、『フードシステムと日本農業』、『自然科学はじめの一步』、『社会の中の科学』、『総合人類学としてのヒト学』などから1冊を選定予定。</p>
参考文献・資料	<p>ゼミナール中に紹介します。</p>
成績評価の方法	<p>① 輪読(50%)、研究(50%)</p> <p>② ①に対してそれぞれ、発表(50%)、他者への質問・コメント・意見・議論等(50%)</p> <p>出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 14:40~16:10、水曜日 14:40~16:10</p>
成績評価基準	<p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。研究</p>

の成果は、学内の研究発表会などで発表することを推奨しています。また、ゼミナール研修会（夏期）は、リゾートしらかみ号に乗り、白神山地十二湖（青森県深浦町）へ日帰りで遠足に行く予定です。学生相互の親睦は、研究活動によって養われることをモットーとしています。

授業計画（環境学ゼミナールⅠ）			
第1回	ガイダンス 体験入室①	第17回	研究⑬ 事例：食の安全性 食品偽装 化学物質汚染
第2回	ガイダンス 体験入室②	第18回	研究⑭ 事例：自然風景の価値 自然風景をどのような視点で捉えるか 生態系サービス
第3回	研究① 大学での学びとゼミナール 学習と研究 コミュニケーションと批判的思考	第19回	研究⑮ 事例：自然風景の魅力と認識 魅力の定量化 自然、文化遺産の価値評価
第4回	研究② 学術研究とは何か 学術研究のプロセス 輪読①	第20回	研究⑯ フィールドワーク 問題の発見 輪読⑦
第5回	研究③ 文献から学ぶ 学術文献の探し方 輪読②	第21回	研究⑰ フィールドワーク 量的データの収集方法 輪読⑧
第6回	研究④ 文献から学ぶ 学術論文を読む 知識を得る、論文の構造を読み解く	第22回	グループ研究① グループの構成と議論
第7回	研究⑤ 文献から学ぶ 読む、批判的読解 輪読③	第23回	グループ研究② 研究テーマの考案
第8回	研究⑥ ワークショップ 討論の方法、アイスブレイク ディベート	第24回	グループ研究③ 研究テーマの目的と背景、主張の考案
第9回	研究⑦ 統計データの収集と分析 統計データを活用する 可視化する	第25回	グループ研究④ 先行研究の調査と分析
第10回	研究⑧ 情報の収集 情報の鮮度、信頼性 輪読④	第26回	グループ研究⑤ 情報の収集
第11回	研究⑨ 情報の収集 図書情報、インターネット情報 量的データと質的データ	第27回	グループ研究⑥ 情報の分析とデータの可視化
第12回	研究⑩ 事例：地球環境問題 地球規模の環境問題 地域の公害問題	第28回	グループ研究⑦ 論理構成
第13回	研究⑪ フィールドワーク 観察の記録（予備調査） 輪読⑤	第29回	グループ研究⑧ 研究目標の作成と確認
第14回	研究⑫ フィールドワーク 観察の記録（本調査）	第30回	グループ研究⑧ 仮説の設定
第15回	研究⑬ 探究の事例：食料問題 食料需給、食料自給率 フードマイレージ、環境負荷	第31回	グループ研究⑨ 中間報告
第16回	研究⑭ 事例：農業問題 耕作放棄地問題 輪読⑥	第32回	定期試験